屋外飲用のお茶の変遷とリサイクル❷

主な出来事

- **農林水産省野菜・茶業試験場設立**
  茶業試験場と野菜試験場が統合(1988年)
- **食品衛生法改正**
  添加物表示義務化(1988年)
- **JAS法改正**
  茶が加工食品として表示義務化(1999年)
  2007年加工食品品質表示基準改正:
  緑茶及び緑茶飲料の原料原産地表示の義務化
- **日本茶インストラクター制度発足**(1999年)
- **地域団体商標登録制度発足**(2006年)
- **ポジティブリスト制度導入**
  農薬残留基準設定(2006年)
- **JGAPの第三者認証制度開始**(2007年)
- **食品衛生法に基づく食品、添加物の規格基準改正**
  放射性物質(セシウム)含有量…飲料水・茶:10Bq/kg(2012年)
- **お茶の振興に関する法律制定**(2011年)
- **食品表示法施行**(2015年)

1980年　1990年　2000年

屋外飲用のお茶の変遷

清涼飲料としてのお茶

ペットボトルお茶ドリンク

ペットボトルの容量の変遷

ウーロン茶(1.5L)(1986年)／紅茶(1.5L)(1986年)／緑茶(1.5L)(1990年)／緑茶(2L)(1993年)／緑茶(500ml)(1996年)／緑茶(500ml)(無色透明)／緑茶(ホット販売用)(2000年)

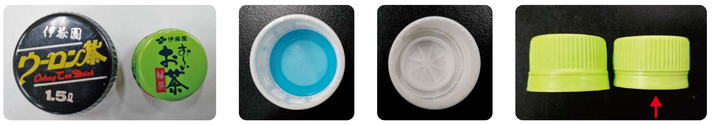
再栓できる利便性が、より身近で新しいお茶のスタイルを創出。容量1.5L→2.0L→500ml→350ml等、様々な容量のバリエーション展開。2000年にホット販売用ペットボトルが登場。以降様々な香味のバリエーションが登場。

嗜好の多様化に対応▶より身近な存在へ

ペットボトルの軽量化

キャップ

- 広口アルミ製(ビンと共用)▶狭口小型化
- 手指の裂傷対策(安全性向上)のため樹脂製
- 軽量化(1ピース、薄肉化)



アルミ製(ビンと共用)(1982年)(広口→狭口:小型化)／プラ製(2ピース)(ライナー付き)／プラ製(1ピース)3.0g／プラ製(軽量化)2.0g

キャップの変換…安全性と軽量化　**ボトルの変換…リサイクル性と軽量化**

ボトル

- 軽量化(薄肉化)
- 着色ボトル▶無色透明ボトル
- リサイクルボトル(BtoB)

大型・広口(1982年)／大型(2L)・広口・狭口 キャップ小型化 63g／大型(2L)・狭口 軽量化 39g／小型(1996年)／小型 無色透明 26g／小型 軽量化 19g／小型 リサイクルボトル

清涼飲料

- **ペットボトル飲料(大型)発売**(1982年)
  コカ・コーラなど、炭酸飲料の大型サイズが発売。
  茶飲料などの低酸性飲料は1986年より発売された。
  散乱ごみに対する懸念から1L未満の小型サイズは自粛。
- **ペットボトルの自主設計ガイドライン制定**(1992年)
  1998年改訂:アルミキャップの使用禁止
  2001年改訂:着色ボトルの使用禁止、直接印刷の禁止、接着剤の残らないラベルへの変更
- **PETボトルリサイクル推進協議会設立**(1993年)
- **ペットボトル飲料(小型)発売**(1996年)
- **容器包装リサイクル法成立**(1997年)

缶とペットボトルのリサイクル

3R活動:Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)の3つのRの総称

リデュース(削減)

製品を作る時に使う資源量や廃棄物を少なくすること

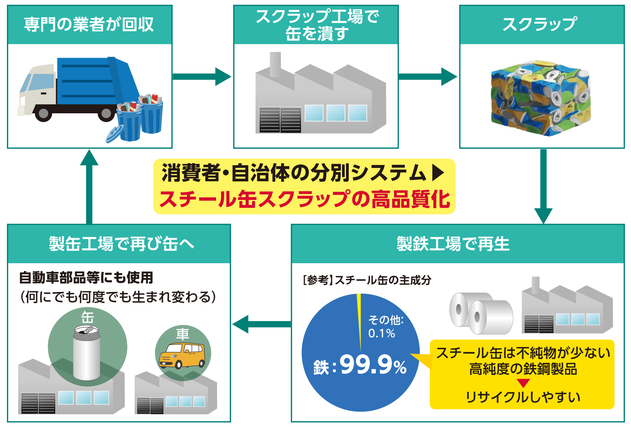
リユース(再利用)

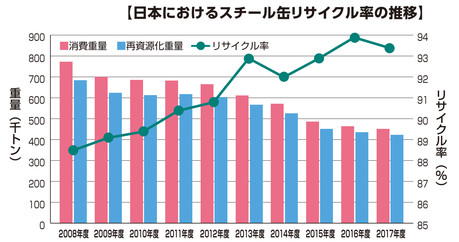
使用済み製品やその部品などを繰り返し使用すること

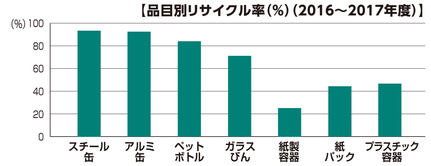
リサイクル(再生利用)

廃棄物を原材料やエネルギー源として有効利用すること

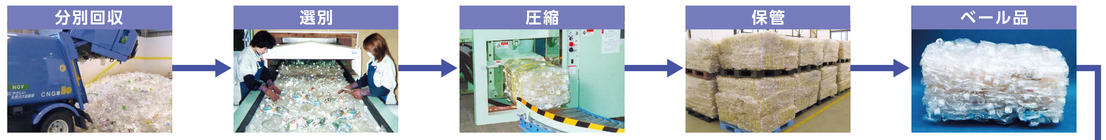
缶のリサイクルの流れ ―回収された空き缶はどうなるのか?―



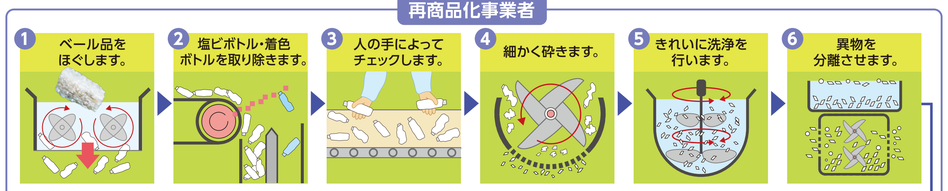




PETボトルのリサイクルの流れ ―回収されたPETボトルはどうなるのか?―



再商品化事業者



●フレーク
❶～❻の工程を経て、約8mm角に断裁したもの。

●ペレット
フレークを加熱融解して粒状にしたもの。

PETボトルリサイクルの方法

ケミカルリサイクル(化学的再生法)
繊維を化学分解して液状にまでしたうえで樹脂や繊維に再生する方法。

メカニカルリサイクル(物理的再生法)
フレークやペレットをそのまま精製してPET樹脂にする方法。